

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新7号館	階数	地上4F/地下1階
建設地	名古屋市天白区八事山150番	構造	SRC造
用途地域	第1種住居地域、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	662 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2031年7月 予定	評価の実施日	2026年5月31日
敷地面積	16,200 m ²	作成者	
建築面積	1,866 m ²	確認日	2026年5月31日
延床面積	6,101 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 2.1 ★★★★★★☆☆ S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境品質 Q 環境負荷 L	★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) Q1 室内環境 LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3 音環境 3.1 温熱環境 3.2 光・視環境 3.3 空気質環境 3.7 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5 機能性 3.9 耐用性・信頼性 3.0 対応性・更新性 3.4 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.4 生物環境 3.0 まちなみ・景観 4.0 地域性・アメニティ 3.0 LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.6 建物外皮の熱負荷 5.0 自然エネルギー 5.0 設備システム効率化 5.0 効率的運用 3.0 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3 水資源保護 3.0 非再生材料の使用削減 3.4 汚染物質回避 3.4 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.5 地球温暖化への配慮 4.6 地域環境への配慮 2.6 周辺環境への配慮 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・キャンパス内の既設建物に配慮した外観計画。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
・日射抑制を兼ねたメカニカルバルコニーを計画。	・天井高の確保、メンテナンス性に配慮した機能的な居室・実験室。	・敷地内に可能な限りの緑化を計画。 ・段差を解消し利用者の安全に配慮。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・自然換気システムを計画。 ・太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの活用。	・再利用しやすい工法・材料の選定。	・キャンパスの環境整備として、必要な駐輪場、駐車場を配置。 ・住居系地域のため光害対策の実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

新7号館

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

重点項目スコア = $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。